

町政を問う

地下水保全条例の制定を！



渡部 勇

本町でも保全条例が必要では 町長 広域で条例制定を

**水源・地下水の利
用に関する条例の
制定が必要**

渡部 「持続可能な地下水利用検討会」が設置されているが、何処まで協議は進んでいるか。

町長 現在、検討がな

れ来年中にも、条例制定になるのでは、また、基本的に県における、条例制定が正しいだろうとの理解が一般的にある。

渡部 伯耆町における、森・人工林(ヒノキ・スギ)はどのくらいあるのか。

担当課長 本町の森林の

面積は、9,471haあり、その内、人工林は3,682haあります。

渡部 外国資本または外国人による森林・水源地周辺の購入情報はあるか。

町長 本町には、それに該当する事例がない。

渡部 今後、民間資本を投入してまでも、水源地を開発利用されるか、または、保全されるのか。

町長 水資源利用も、節度を持った利用を行い、なおかつ保全に努め、次世代に受け継ぎたい。

人口減少が続くなか、人口流出を防ぐ施策を

渡部 若者・女性の声を聞き、「住民全員を対象にしたアンケート」をする考えはないか。

町長 総合計画における、

アンケート質問の内容の充実に努めたい。

渡部 本町でも、核家族化が進んでいるが、多世代で家族構成されている世帯になにか優遇施策はないか。

町長 多世代同居は、生活の充実度が高い面がある。また、本町では多世代同居の子育てを応援す

る「孫セミナー」を独自に開いている。

渡部 人口流出はこれからも確実に進んでいく。二十代・三十代の若者世代に対して、行政が取り組んでいる主な事業を教えてください。

町長 折に触れて、事業を広報などで紹介していきたい。



保水が弱い人工林



保水力を保つ森(自然林)